

この平家一族の滅亡によって、諸々に逃れた平家の家臣とその一族は、この東日流にも入り、いろいろな記録にとどめている。

蒼海（西海岸一帯）浮大刀（浮田）にそのかくれ場所を定めて、天皇山城を構築している。一説には安徳天皇は、この地にのがれてその名をとどめているという。

外三郡誌の中にも『平家恨霊譜』の記録を残しているのに興味深いものがあり、ここに得難い史実がかくされている。

その記を紹介しよう。

安東水軍、源氏よりその加勢招状を請求するも、是を断じて安東氏季は、十三湊より軍船を十二艘出動し、赤間関に出帆せしめたり、祖来より源氏への恨報は久しき因果となりて、京師六波羅探題衰崩して以来、熊野の尾崎一族の源氏への加勢に依りて、平氏水軍の勢は次々と衰えていった。

その上塩飽水軍、小豆島の池田水軍、因島の村上水軍も、次々と平氏を裏切りて、遂に屋島の合戦にては、平氏の前途を迷惑なして大敗をきする事と相成った。

平氏一門は豊後水道を西に壇ノ浦なる赤間関に船陣なして安東水軍の来るを待てり、然れども源義経の軍勢は一举にこれを追討して合戦せり、平氏の公達はこれに応戦したるも、安東水軍の到来ならず、それ故に敗れ去れり。源氏の勢に捕わるを嫌う平入道二位尼は、幼帝安徳天皇を奉じて辰宮に入水せり、依って皇継の御印三種の神器も俱に入潮せり。

依って源義経是の責心やるかたなく六十余日を尽して潜夫百人をもって探求せしとも見当るなし。依って九郎義経心痛やるかたなし。自業自得なりとして諦めることとなったが、村上水軍の水夫達が鏡及び玉を見付けたるも宝剣のみは見当るなし。此の神器三種は代品なれども義経の無謀なる戦法の軽率、平氏の恨霊呪うるか、義経以来住む処なく奥州に追わるる身と相成りしは神仏の罰なりなり。

安東船は壇の浦合戦終りて到るも、平氏救命の要にならざるを悔いたり。然るに向船奥州へ退せむるに洋上に使者ありて、日向国五十鈴川湊に平氏一門の高位公達等隠住し、安東船の救いをまてる報せに、一路東に向舵して、五十鈴湊より平氏一族の貴族百十人を奉乗して、一路奥州十三湊に救ひ来るに、恐れ多くも安徳帝の御成二位尼と但に在りせば、安東氏季浮大刀に御処を築きて、是処を天皇山として護り給へき………東日流御所跡天皇山と曰う。

と記され、このような敗者の歴史から抹消されている史実に今更ながら驚異とする以外何をか語るを得ん。東日流の里にこそ、上古代から中世紀にかけて、日本史からかくされた史実の探究、またそれを解かんとする史跡が残され、日本海文化親潮の解明の日をまっている。

誌友寄稿

想い出の人々

岩田春海

山中利一氏・小山内漫遊氏

昭和十年の秋の土曜日であったと思う。早稲田の相撲部の道場へ練習を見に行った。練習は十二時頃から始った。

友人の石見が相撲部員だったので行ったのだが、その日は、出羽の海部屋から指導に来た出羽湊関付人姫ノ浦（三段目）外と、早稲田の先輩が来て居た。

部員は、金子主将、貝藤（学生横綱になった人）や、仲戸、水野、中川、西内平八郎（後の幕内力士、八幡野）、山中利政（山中利一氏の弟）その他の面々でした。

激しい練習が終わったのが四時頃だったと思う。黒い着物を着た先輩が居り、ドンブリの御飯をならべ大きな鍋をかけ、チャンコ料理を御馳走すると云うので、私が帰ろうとすると、その先輩が「帰らないで待っていろ」と云う。私は、「相撲部員でないので失礼します。」と云うと、「だまってる」との事で、その先輩の好意に甘え御馳走になった。

それが山中利一氏との初めての出会いであった。食事が終わって話をしていたら先輩が、私に、「君の出身中学校は何県だ。」と聞いたので、「兵庫県です。」と答えると、「そうすると貝藤の後輩か。」「いいえ、ちがいます。貝藤先輩は姫路の方で、私は神戸です。」「生れた所は神戸か。」「いいえ、青森県です。」と答えると、「おう、青森のどこか。」「弘

前です。」「おれも青森県だ。五所川原の近くのカセ村と云う所だ。」と云われた。

食事が終わって帰ろうとすると、「お前、今日はこれから何かあるのか、暇ならおれにつき合え。」との事で、小生の友の石見、山中利政両君と、呉服橋の日米ボクシングクラブのジムへ行った。

ジムには、ボクサーの高見倉蔵、藤田左伝、綱野松雄、山中利行外が居られた。

練習を見て夕食を御馳走になって、その時は帰った。その後よくジムに遊びに行き、日比谷公会堂でのボクシングの試合などを見せてもらった。それから阿佐ヶ谷のお宅にもよく連れて行ってもらい、お世話になった。お宅には、四つか五つ位の男の子供さんが居られた。何時もお世話になっているので、ある時新宿の中村屋で菓子を買って持って行ったら、「馬鹿野郎、お前のような親の脛をかじっている者がそんな物を持つてくるものではない。持って帰れ。」と怒鳴られた。

帰りに奥さんが、中村屋の包装紙の持って行った箱を渡されたので、友達の下宿に持って行き、「先輩の所に持って行ったら叱られて返された。ばかばかしいから食べてしまおう。」と開いて見たら、中身はテンブラや肉をいためたもの、焼魚が一杯入っていた。

奥さんの心づかいに感謝しながら飲みなおした事を思い出す。

それから思い出すのは、先輩に連れられて頭山満翁に御会いた事や、牛込の南横町の大化会の岩田富美夫氏の所に行った事を思い出す。門を入ると、着物を着た若い者が立並び、先輩が胸を張って行くと「オッス」と云って頭を下げる。その大化会で大川周明氏にも御会いた。小山内漫遊氏と話をした時に、山中氏の世話で、小山内氏が大化会で起居していたとの事。下っ端は着物の着がしで羽織袴の着用、紋付の着用は位が上でない出来ない、と小山内氏が話していたのを思い出す。小山内氏に会えば、山中先輩の小さい頃の話が聞かされたものです。

昭和五十二年の十一月だったか、十二月か忘れたが、五所川原の弘南バスの待合所の椅子に漫遊氏が座って居たので、声をかけ、「どこへ行くのか。」と聞くと、これから嘉瀬へ帰るのだ、との事。「何時のバスで？」と云うと、歩いて行くとの事。財布を落して板柳から歩いて来たとの由、売店で一緒に食事をして、バス代と云って金を渡したら、「今度車力に返しに行く。」と云うので、そんな事どうでもよいから、と別れたのを思い出す。

これが山中先輩を通しての小山内漫遊氏とのめぐり合いです。

それから、昭和十年か十一年の頃、山中先輩に連れられて、銀座で飲んで居たら、ギターを抱えた若い者がやって来て、先輩に「歌わせてもらいます。」と云って、

銀座の街 今日暮れて、

美しい歌 たのしメロデー……

一曲終ったら、先輩が「岩田、この人は青森県出身で音楽の勉強をしているんだよ」と云った。その人は、「私は、木造の〇〇と云います。」と

云って、その後五、六曲歌った。終わったら山中先輩が財布から五円紙幣を出して渡した。一曲歌って三銭、二曲で五銭位もらって居る頃なので、その人は左わきにギターを抱え両手の手のひらに五円紙幣をはさみおがむようにして何回も、何回も「ありがとうございます。」と頭をさげた。

その後、藤田左伝、山中利行氏と上野・浅草方面に飲みに行った時、ギターを持って歌っているその人と二、三回会った事がある。

昭和十四年召集を受け軍隊に入り、昭和十五年二月弘前陸軍病院に入院した。五月か六月頃歌手の岡晴夫が慰問に来たので、慰安室に行き、後の方で観ていたら初め作曲家の上原げんと氏が挨拶をしていた。その後岡晴夫が「上海の花売娘」ほか数曲を歌い終り、解散してから友と話し合いながら病室へ帰ろうと廊下を歩いてゆくと、岡晴夫・上原げんと一行が重傷者を病室に見舞うのと会った。その時、上原げんと氏と顔を会わせたら「やあ、あなたでしたか。」と云われ、見たらそれがギターを抱いて歌って、三銭五銭ともらって歩いていた人だったのです。

「早く病気をなおして元気になるように。」と私の手を握って別れた姿が見えなくなるまで、山中先輩から五円紙幣を貰って拝むようにして頭をさげた事を思い出し、廊下に立って見送った。

これが山中利一氏への思い出であり、山中先輩を介しての小山内漫遊氏、上原げんと氏の思い出を綴ってみました。

編集部から

岩田春海氏は、西津軽郡車力村において医院を開業しており、木立久二会員を介して「かたりべ」の愛読者になっていただきました。

かたりべ第四集、山中利一の特集、若い頃の漫遊の記事に、昔の思い出がよみがえってきたものと思います。

山中日記解説

沢田政孝会員から珍しい日記があるとの知らせをうけて、嘉瀬本町の山中雄湖さん宅を訪れたのは昭和五十九年

六月でした。

メンバーは、沢田政孝・木村治利・原田万治・木立久二・木下清一・沢田薫・秋元惣之進・山中正津の八人で、いろいろ雄湖さんのお話を聞き、古い書物やら書、仏壇等も拝ませてもらい、いよいよ目的の日記帳を見せてもらいました。

明治三十四年から昭和二十八年まで、五十三年間二代に亘って記録されてきた貴重な日記は、大神宮暦に書かれてあった。

山中雄湖さんは「かたりべ」へ掲載することを快諾され、責任者が自宅へ帰って筆写してもよいと持出しを許してくれました。

冊数も多く、古い物なので会員たちは取扱いは丁寧に、そして一日も早く完了するため五人で手分けして書き写しました。

明治三十四年からは、山中滝五郎氏（文久元年〜大正十一年）が書き出し、その後を引続いて山中樵夫氏（明治十八年〜昭和二十八年）が昭和二十八年一月末まで書き続けていた。

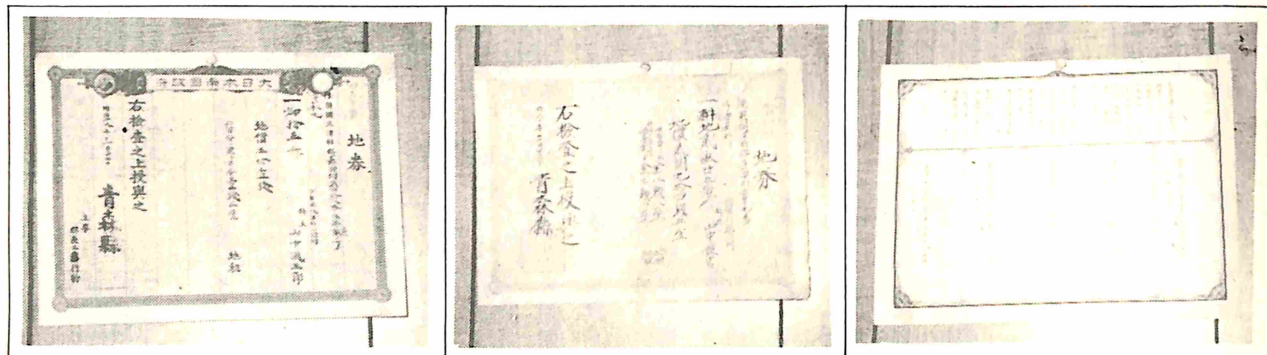
内容については、天候は勿論社会的な出来事や家庭内の私的な事柄まで詳しく記録してあったが、本誌に掲載するに当っては、社会編と農業気象編に分けてまとめました。

文章や文字についても原文に忠実にしました。

◎ 一代目 山中長吉 ― 二代目 山中長吉 ― 三代目 山中滝五郎 ― 四代目 山中樵夫 ― 五代目 山中 巖 ― 六代目 山中雄湖（現在の当主）

本編取材整理＝山中正津、木村治利、原田万治、木立久二、木下清一

明治34年より昭和21年まで 二代 記 山中日記



山中日記

社

会

編

明治三十六年

◎五月二十九日大雨で水害地二百町以上西部堤防破れ式百町歩皆無となりまし
為め、車力方面にては北海道へ行き空屋
多数ありと言う。

◎七月十三日午後四時より大雨、盆の墓

明治四十二年

◎六月六日夜中柏木の原田勇吉出火。

◎六月十八日午後十時地震あり。◎七

明治四十三年

◎二月二十四日古町の神仰者大なる綱
旗を八幡宮へ寄進す。◎六月三十日虫
祭り。◎七月二十一日午後七時より大
雨あり、山久の山木流れ、官材も流し、

鰯多漁せり。

明治四十四年

◎三月二日雪の上出水あり、川堤防騒
ぎあり。◎四月四・五日の両日東風に
て大雨あり、当地出水甚し溜池の堤防も

参りは履物は面倒、ハダシにて焼香し、
十四日夜畑中の川橋流失患えであり、夜
中半鐘を打ち避難の為め消防が集り警戒
せり。薬師堂の道路も腰限り水であり、
此の年は腸チフス病があり小栗崎にて死
亡、平川の兄も死亡しました。

月十六日櫛引佐口衛門より出火住家焼失。
◎十月十七日神田橋開通式天気晴れ。

水口堤防破れる。◎十一月十七日雨風
は激しく往来もならず、下浜では時化で
船が流される大荒。◎十二月下浜にて
鰯多漁せり。

既に破損するようになり、飯詰と味噌ケ
沢にて出水の為め死亡者五名でき家屋流
失。◎五月九日山田野師団演習官衛全

部焼失野火原因。◎六月十九日大雨降

り当川堤破損し植田水浸しとなる。◎

七月一日砲兵来嘉し嘉瀬野原で本日五時
に発砲す。◎七月十五日嘉瀬溜池に杭

打堤防修繕あり、請負人五所川原の尾崎
永太郎。◎七月二十一日土用前、六時
五分大雨降り、近年まれなる増水水害甚

し、堤防破れ新道往来ならず。◎十月
十七日出水あり稲流失す。農民困難し当
家ではサガリ枝流し、山林鉄道不通とな
る。◎本年山林鉄道金木踏切りの箇所
へ貯木場を設置する。◎十二月五日喜
良市小林区にて嘉瀬長泡公売。◎十二
月十七日雪大吹せり金木以北馬橋不通。

明治四十五年

天皇陛下七月三十日崩御、年号を大正
と開元す。大正元年七月三十一日初。

◎一月二十五日派立の郷倉屋敷公売へ
七畝二十四歩九十五円八十銭落札。◎一
月二十八日大巻村社入札を行い当村吉崎
熊吉落札す。◎四月二十六日薬師堂地
と一ツ森地面に入札あり村内落札する。

◎五月五所川原の一戸は吉崎豊作宅に出
張所を設け診断す。◎五月十一日中柏
木野生徒運動会あり。湯の沢地蔵尊に有
志が旗を寄進せりと。◎五月二十八日
海軍志願兵山中圭一・土岐只七郎・杉山
勝郎出立す。◎九月十七日当地人丸の
松林伐採せり風景悪し。◎狐崎の山久

松林伐採是れも風景悪し九月二十四日。
◎十月当村ハシカ流行死亡者出る。◎
十一月十六日黒川慶太郎娘と今伴蔵『シ
ルス』詰めをして死亡。◎十二月金木
阿部兵太郎妻四・五年前四方浪々して当
年夏より実家に来り病氣にて本日死去せ
り、仮令何にしても浮気心は困りたるも
ので注意せねばならず。

◎二月十三日午前一時頃平川豊作馬屋
出火、鳴海八五郎住家を焼失する。▲
十一月二十二日午後十一時過ぎ棟方甚作
住家焼失せり、風もなく道路よし、出火
甚作にて稲石残り大豆等も焼失せり誠に

困り入りたる出火である原因は放火の
うわさも出る。▲十一月二十四日午後
九時頃山中永吉の馬屋より出火居家と二
棟焼失せり、棟方甚作馬焼死せり。▲
十一月二十五日午後七時喜良市三上捨二
郎より出火中、其の嫁と、三右エ門家稲
共焼失せり。▲十一月三十日午後八時
鳴海大五郎外馬屋より出火全焼。▲十
二月二日午後六時前山中文三郎納屋出火。
▲十二月三日鈴木孫十郎家馬屋全部焼失
せり。▲十二月十八日午後七時過ぎ吉
崎孫三郎外馬屋出火焼失せり。▲十二
月十九日吉崎豊作外馬屋焼失せり。

焼火消防止め内にて、アヤシイ外馬屋
焼失に大騒ぎ、吉崎豊常放火の事に付捕
縛となり呼び出され、人々の想像は該人
との事実、にくむべき事なり。

◎本年五所川原分院として嘉瀬隔離所
設立される。

吉崎豊常は、親豊作、祖父は新兵衛と
言う。此の豊常と言うものは、慾心は無
く、唯だ狂気のもの様にて当地の納屋
へ放火し、七・八軒焼失せり。

其の原因は、自分は消防手なる為め、
出火毎に優勝の働らきを視せ、高慢をす
るにて、数軒に放火したるに、遂に捕縛
となり、放火罪として九年の刑に処せら
る。

時に赦免となりて大正九年九月二十二
日帰宅せり。然るに同人、田五反歩以上
と宅地を売って、二千六百円程入金し、
集金をすべて賭博を為し、その中当地常
習賭博の者は皆警察の取り調べを受けた
り。

大正三年

一月十六日放火者吉崎豊常、金木より
五所川原に既に護送を終り、拘留中逃走
せり、大騒ぎとなる。豊常は西部十三方
面にて取押られ青森へ護送される。両親
にとつて誠にかなしむべきことである。

◎一月二十八日豊常放火現場検証の為

◎九月毘沙門より発疹ツフ病三名当
地隔離所へ入院。◎旧十八日晚大雨に
て盆踊り中止。◎九月間山溜池樋改築。

作年凶歳にて、去る十一月・十二月頃よ
り今年春迄は誠に惨状でありましたが、
五・六月頃になれば餓死するものと想像
するが、豈はからんや景気回復して、食
事のにぎやかになりました。是迄の困
窮者は反えて安楽の有来りである。夫は
如何なるや各県より救助米あり、又慰問
袋も送られ、或は当村区にて救助の導
を付けたる為アリガタス。

大正四年

近年未曾有の大雪吹き、金木郵便配達持
富野と神原の間に凍死し、荒閑と言う若

大正二年

▲十二月二十八日津田与作外馬屋焼け、

者なり。又、鯀ヶ沢の配達持一人も死したるという。尚又下浜の道路にも乞食死ぬるという。

× ×
◎二月二日未明喜良市出火湯屋一軒焼失。 ◎四月二十三日夜十一時飯塚貞吉家出火す鎮火せり。 ◎五月八日運動会本日誠に天気好し。 ◎六月十一日子供熱病流行して死亡者でる。 ◎六月十五日砲兵隊演習にきて五名泊り、金木野にて実弾射撃あり。 ◎七月三日金木競馬あり。 ◎七月六日古町原田忠助後小屋出火。 ◎八月五日五所川原飛行機見物。

大釈迦通り七段坂とは古し、難渋なる所、駄馬で往来するも二俵の米にて該山坂昇りにて弱き馬は、往来ならず。困って明治になりてより、難渋なる箇所開削し、軍馬にて往来となり、該道通行するが、近年流行自転車はなかなか昇る事難ず。自動車も困難である為め、大正三年に是迄道路を何十間と言う掘下げ、実に

大正十五年

本年一月一日は雪なし、道路は車にて

平均なる程になりましたが、本年の雪は多きに積み、のみならず雪消えと大雨にて、開道の雨、山へ水を漏らし、一回は少々崩れ、本月七日午後にて亦側の屏風の如く山は破崩し。其の際に当地の女共大鰐温泉湯治に行き。其の帰り馬、神島安兵衛方は荷車挽きたる際、該所は崩れ其の土に当り負傷し。金木の馬方は全体土の中となり、漸く掘り所、生命には異状なし。荷車は壊破する。四月七日の事也。

× ×
当村の共同漁業者は岩内にて、不漁而(実)ならず、六百元の共同金外二百九十四円七十何銭と言う損金へ、青森区裁判所より仮差押の通知、五月八日ありたるなり。『何ものでも能く考えて視なくてはイカン』。親戚の為に失敗したるものである共用者は、津田孫太郎まだ若年のものの、咄を聞き確かりと漁場を一見せずに取究めたる事故に、共同者は破産せり。

× ×
往來せり。一月三日は旧十一月二十八日

崎の人々は薬師山へ参詣あり、松川勘九郎は、なかなか偉い人物である。〔祠堂地大凡〇十坪位いと言う。ほか浜田友吉の古畑より西は民有地と言う。合せて四町歩位〕

× ×
当地の加藤熊吉の子供竹成は年二十才

大正十六年

◎一月二十八日当地電燈初めて点じ、山中貞助宅にて電燈祝会あり。 ◎二月二十日黒川与八当地にて生活困難の為め北海道余市へ早朝一家族出立せり。

◎三月十四日夜九時過ぎ齊藤善佐大工小屋焼失。 ◎四月七日雪どけ大雨降り嘉瀬川堤防破れ、箇所は染屋勇八田の当り三本柳道路なり。 ◎七月十七日東北風強く今才太郎出火せり。 ◎九月七日十川・岩木川出水、畑水害。 ◎九月十六日金木で東京相撲あり。

× ×
本年は米は非常に高くなり、何時も八円内外であり、其の他諸物価暴騰せりと言ひども、細民者にとりては少しも屈せず。何の為をぞと言うは、鶴ヶ岡及茂川防水堤防改築、或いは飯詰川堤防、長富の防

に当り、飯詰法林寺へ参詣し、其の間道に中柏木村の前後端しに雪ありしも、陸路にして足駄にて行き、帰村のとき、中柏木の村端れ、勘之別家岸の野原に休足し所、佐太と高治郎三人、野原に火を付けたれば、野火は自由に付きました。

× ×
◎一月九日乞食かよカガ中柏木の帰り死したるを発見。 ◎二月山中宇之長男利一青森師範学校を退学させられ、東京の学校に行く。実に謹しむばならぬ。

◎三月二十二日工藤保次郎は、薬師山三年已前、宮地として下下げし既墾せし地松川勘九郎等に祠地取り戻される。 ◎三月二十五日当地にて馬力試しあり賑かなり、景品進呈す。 ◎五月十九日、本村学校運動会。 ◎五月二十三日派立端れ馬頭観音祠入札。 ◎六月一日向いの田飯詰川橋新規架渡し。 ◎六月八日午後十二時小栗崎伊藤九左エ門居風呂場焼失。 ◎六月二十五日金木電燈祝開式あり。 ◎六月三十日金木競馬あり。

◎七月類似赤痢にて子供毎日死去せり。 ◎九月十九日本年早魃の為め佐左エ門溜池樋門新築せり。 ◎九月二十五日樋口の水門が抜け大騒ぎとなる。 ◎十一月

の大橋木場の家の屋根全部吹き飛ばさる。五月一日村会議員選挙の所、初めは競争あり、小栗崎松川勘九郎・伊藤証吉と地盤を競へ、古町は鳴海丑之丈と鳴海繁太郎と古町地盤を争いたるも、開票結果候補者中皆当選せり。中柏木の原田慶吉の如くは馬喰つて他の投点を捨てたる事なり。

× ×
一級当選者鳴海丑之丈・其田弥一郎・山中勝太郎・松川七五郎・山中万七・鳴海繁太郎。二級当選者白川魁一・高橋竹太郎・飯塚喜代太郎・山中宇之・伊藤証吉。

× ×
長富の増田では、其村の二番位に屈せられる財産家なれ共、賀養子の我ままの

大正十七年

◎四月十七日午後十二時小栗崎伊藤佐吉火事鎮火せり。 ◎五月十七日運動会嘉瀬溜池にて二人溺死。 ◎六月八日桶屋山中嘉之作長男千代作六年目に帰村せり。 ◎六月二十三日北郡青年団大運動会嘉瀬勝利を得る。 ◎七月七日金木春期競馬。 ◎七月二十四日子供の病氣流

× ×

十九日派立に庚申塚たてる。

× ×
去る大正二年四月に鳴海男治一家族、北海道北見国へ移住せし。その後五月上旬に山中嘉之作桶屋も移住せり。

然るに男治の長男則太郎は、年令二十七・八にて、自分畑内にある木材伐採の為め、其の掛り木に押され即死を遂げたり。其の妹は他家へ縁組して死亡したりと言う。

× ×
嘉之作は、既に両三年は好都合や無く本年二月柵室へ入りて、火の中へ片ヒ子壱本焼け失い、生きても死と同じ様なあり様、誠何れも大惨事である。

× ×
工藤保次郎当地の薬師山下の原野廿町歩、大林区署から官地として払下を得、既に三年前より畑とリンゴ園として開墾し成功したりたるが、此の原野は全ったく民有地であり、役場員と区会議員を談導して、自分流にして、官地として区の会議に決定す。

然れ共、小栗崎の松川勘九郎は独り反對し、数度大林区署へ交渉せしも、兎に角薬師堂祠地は、勘九郎〇〇〇〇四町歩還付したりと言う。本年旧四月八日小栗

為め、家内不和となり。既に民事方判〇迄も分限相続訴訟提出になり、末子嘉一のもの増田の家を継ぐと言う事に、親の意見にて、養子を引去らせ、嘉一を相続権を所持させたるに、五町歩以上の田地を仮に売却し、金三千円を取るせしに、其の金を裁判費用又は彼是と消費せし残り二千四百円と言う大金を、土蔵の内に入置きたる所、盗難に遇へ誠に困り入りたるなり。

× ×
八月中の事、盗難で家内中は警察の調べを受けた所、嘉一の妻は〇松より後妻に來り、其の女は白状せりと、金の所有不明。

後妻は九月十八日午後十二時頃留置より出て、小便と偽り、警察の前の松の木で縊死を遂げたり。

× ×
行死亡者出る。 ◎八月十九日『エマシ』と『押しえ場』堤防破れ水害。 ◎十月二十日感冒流行猖で葬式七ツあり。

× ×
密告者山中宇之・齊藤直太郎は小野巡查を懐き、二月二十七日臨検となり、其の夜取調を受け、当家の糞掘器のクリア

ゲの下箱二寸の間隙に、米残留してあるものを山中宇之は告発せり。

其の証人は自分養子智と花田松五郎を立て、米壹斗五升あるとした事、警察の検証では壹升五合か、或は貳升と鑑定せり。我々と育は四月二十二日青森地区裁判所検事局へ出頭せり。其の日迄と二十三日取調べを受く(検事松藤正憲)たるに、何んの事もなく帰宅せり。

然るに四月二十九日、金木分署より還付の呼出状到来し、午后二時に押収になりたる精米の帳面七巻還付となり、誠に喜びなる次第であり、罪なきものを罰せんと企て告発せるは誠に悪むべき事情であり、是れは死んでも忘れざるものである。(不可忘)

旧四月八日は誠に好晴天であり、学校生徒運動会であり、溜池に学校用小船あり、総て運搬せしに、小栗崎秋元文七の兄文五郎と浜田永作の智、是れは傘柳村より来りたる人、夫れと伊藤証吉の子供熊と、秋元文三の弟と、今長八男文長と五人。○中央点に船にて行きたる所船に水溢れたるに付、文五郎と、永作智は、ドンと跳び、子供の三人は船にシガ

り付きたるため、三人は命は助かり、二人は溺死に到りました。誠に悲しむべき事である。

旧四月八日に、飯詰川の泡の橋上に溺死の死体あり、手足は露見しれ共、上部が砂に隠れ、相分らず。検査の所、顔も手足も腐敗して、誰彼れ分らざるも、書面一通と、金壹円余程帯せり。

因れ見れば、高根の野上三太とか言う。二月北海道行き、其の帰る途中にて酒を呑み、路でも迷い、川に落ち、溺死せりと言う。誠に不憫な死に様である。

五所川原にて六月二十三日、青年団運動会あり、雨天にも不拘施行したるに、五所川原より木造までマラソン往復、三十四分にて、一着内澤の者と、当村沢田岩吉の弟與三と兩人であり、東奥新聞社のメダルと、報知新聞社のメダルと、一人に一箇、ほか部長より木綿御下賜になり、当村青年団は一等賜与数人あり、誠に歡喜でありました。

大正十年

○一月三十一日小泊大火五十軒。

○二月一日当村避病院に入院者あり。

○三月十六日山中定五郎釧路行移住民。

○三月二十一日嘉瀬賭博連名で警察に調べられる。○四月十五日中里火事三十戸。○五月一日村会議員選挙。○五月四日八幡宮春お神楽。○七月十四日法林寺にて宝物内拝あり。○七月十六日金木南台寺越後よりの宝物内拝。○嘉瀬山の土埋木にて八幡宮社内寄合す。

○九月六日木造馬市。○九月十日土埋木採伐大典沢行き。○嘉瀬チフス患者二人あり隔離病所へ行かず。○十一月九日毘沙門小学校上棟式。○十二月十八日昨日吉崎弥四郎の兄『カンタ』と中村十助の『ハドゴ』勇治の兄松前行き。

○十二月二十四日学芸会あり。

▲村会議員選挙候補者 七人組派

Ⅱ工藤保次郎(落)、鳴海筆八、

鳴海丑之丞、鳴海繁太郎(落)、

花田政次郎、伊藤亀吉。山中勝太郎派Ⅱ山中勝一、齊藤直太郎、山

中兵市郎。独立派Ⅱ沢田立雄

▲区選結果Ⅱ一級一櫛引七五郎、

花田政次郎、鳴海丑之丞、山中勝一、齊藤定五郎、齊藤直太郎。

二級一原田辰五郎、高橋竹太郎、

山中兵一郎、伊藤亀吉、鳴海筆八、

沢田立雄

▲毘沙門新築中、学校倒破し、七月七日(旧六月三日)の東風にて梁間五間行間十二間の校舎風のため倒れ、請負人花田○の分損害を来し。

▲金木旭座頓死。金木にて本年芝居小屋新築せり。十月三十日より初め、十一月二日に芸人は舞台の上で頓死せり。其の葬式は『ねりや』の旅館で送葬せり。是れも未曾有なき事であり。

▲本年の春、当地の人は十三人連帯として、北海道釧路阿寒郡舌幕村原野にニシベツ未開地大凡百町歩貸付許可になり、然れ共北海道人岸部慶太郎の毒手に依り、意の如くならず、中途の札幌道庁よりの岡にしたる者八人、其の他妻子あり釧路まで行きたるものは五人あり、貸付け受けなん地所の樹木百円にて売り。

大正八年

○宮の献納物は、畑中左大臣、古町は不用の大政大臣、鍛冶町は手洗石。

○六月二十八日金木競馬。○八月一日

北部連合青年団運動会、マラソンにて当

大正九年

○一月十日東京に流行感冒多し。○

東京大阪感冒多し死亡者続出。○三月

六日『能久』で唄踊会あり。○三月八

日金木の学校で軍事講話あり。○三月

二十四日中里にて流行感冒患者多大死亡者出る。○五月十三日小学校運動会。

○五月十九日嘉瀬森林保護組合総会(役職人改選。○碑除幕式招魂祭。○五

月三十日金木にて連合消防演習。○六

月二十五日小学校内で種痘植える。○七

月二十九日県道畑中橋を掛け替え。○八

月八日旧廿三日地蔵様の宵祭り。○放火

人吉崎豊常七年以上鉄窓に住み漸々放免となり故郷に帰る。(九月二十三日)。

○九月二十七日木下九郎子三郎隔離所死亡あり。○十月二十四日金木元藤枝通

り三軒焼失せり。○十月二十八日夜金

木火事一軒焼失。○十一月三日午后五

地の沢田與三郎一等を得る。○八月二十九日馬草刈り野分けする。○九月十八日白戸飛行機乗り金木野にて。

時原田巡查頓死せり。○十一月二十七日金木夜火事子供三人焼死せり。

▲五月十九日嘉瀬森林保護組合役員改選結果、選挙当選者は左の通り

組合長鳴海林蔵、副組合長山中滝五郎、評議員 浜田永作、鳴海藤太郎、鳴海辰太郎、山中兼蔵、平川由七郎、工藤弥一郎、合計八名

▲除幕式 嘉瀬村中本年初めて招魂碑建設し、寄附金三千円に達し、大宴を催し準備をなしかれ共大雨のため思う通りに行かず、酒宴会は学校に於て行う。

▲腸チブス流行隔離所へ旧七月は廿八あり。

大正十一年

○二月四日金木で活動あり生徒行

く。○二月二十六日嘉瀬区会選

挙。○五月四日小学校運動会。

○五月五日八幡宮神楽。○九月

二十九日小学校新築につき村会あ

り。○トラホーム治療役場にて。

○十二月三日今才太郎二男『赤子』映

画新道に店新築。○十二月十三日

馬削蹄士岐氏となる。

大正十二年

Ⅱ八月一日東京附近数十里

に於て大地震。九月一日東京大地震があ

り死傷数十万。

大正十三年

嘉瀬小学校六万五千円にて

工事、花田征五郎落札。

大正十四年

三月二十六日阿部元太郎側

空地にて唄会あり。

大正十五年

○七月十日青森大火。

▲八月二十八日警鐘台七月中に新築、元

山勝前沢田立雄側にありし二本柱を渡し

て当駐在所前に建立せり。

▲大正十五年十二月二十五日午前一時

昭和二年

▲昭和二年三月十九日工藤保次郎村長
辞職。 ◎三月二十九日村長に山中礼一
氏。 ◎八月十日前町の湯屋改造。 ◎

昭和三年

◎四月二十三日午前一時長富火事七戸。
◎五月十一日在郷軍人演習。 ◎五月十

昭和四年

▲嘉瀬酒造株式会社解散、本年より原田
本・分家合資にて酒造初めり。
▲木立間五郎、今直太郎の後を受け料
理店を開業。

昭和五年

◎四月二十日家屋税調査委員選挙。 ◎
七月十五日津軽鉄道金木より開通祝賀会

昭和六年

▲嘉瀬スキー場開始、村補助百五十円。
◎一月六日スキー講習会あり。 ◎

昭和七年

▲村長伊藤亀吉、飯詰・毘沙門間の路

線でガソリンカーに合えあわて大ケガせり。

▲村会議員選挙Ⅱ総投票数八七五、キ
ケン四七、無効一、福岡要一(七四)

花田征五郎(四九)、鳴海辰太郎(四六)
其田弥穂(四四)

原田勇太(五九)、増田正蔵(五九)
増田栄作(四九)、浜田永作(四五)
木立間五郎(四五)、内海勘四郎(六九)
工藤林蔵(五八)、山中利雄(五三)、

◎一月十七日阿部佐之炬燵より火事。
◎二月二十日県下スキー大会。 ◎五月
十八日春季運動会。

昭和十三年 ◎一月三日午前六時半原

田家焼。 ◎八月十四日夜盗。

昭和十四年

◎五月七日金木観桜会、春神楽 ◎
七月四日消防は警防と為る。 ◎七月十
九日工藤林次郎引越。 ◎八月二十七日
旧孟蘭盆。 ◎九月十五日東京相撲双葉
山一行。 ◎十月二十七日防空訓練。 ◎
十二月七日土岐只七郎昨年まで助役職に

あり、満期後改修工事に務む。

▲物価総統制。消防組は警防団
に改組 初代団長当時村長中柏
木杉山金造氏。

▲政府供米嘉瀬は北郡第一位
一回に一万五千俵。

昭和十五年

◎二月十四日戦死者慰霊祭。 ◎四月
三日村会全員檀原神宮参拝。 ◎七月十
九日砂糖切符制となる。 ◎八月二十四
日山中利一納骨式。 ◎十二月二十二日
鳴海辰太郎長男近衛の病院にて数日前死
亡、同家昨年次男長女を失い当年長男死
亡肺結核は恐りべきもの同家の不運かな

しいかぎり。

▲前科七犯吉崎豊常五所川原佐々
木具服店因辻薬店、千田入金庫盗み
捕はる。

▲紀元二千六百年記念として雪見
石燈約一週間に自作製据付ス
十一月十七日 樵夫(五六才)

▲五月六日烈風中午後十時、喜良市今
幸八郎宅出火、営林署外一戸焼失せり。

今に奉公中の『だじ長妻』焼死。如何に
火が大なるも死人が白骨にとなるは、私
としては疑あり。腐れ電柱倒れ三名重傷
西安もその一人。

◎一月一日馬車通り、五所川原自動車で。

昭和八年

▲昭和八年二月二十七日郵便取扱所開始。

昭和十年

◎一月中に山中宇次郎七四、浜田運吉
七四、山中才七七〇死亡一日置きに

◎三男時田の草盗みに行き殺害さ
したりが、寅吉は村のアマシ者。 ◎五
月五日金木観桜会。

昭和十一年

◎一月三十一日飯詰踏切にて、大吹雪
にて向うが見えず女三人馬轡に引かれる。
◎二月九日学童スキー大会。 ◎四月
三日嘉瀬森林保護組合総会。 ◎四月十
三日幼児豚に食はれて死亡Ⅱ吉崎十造子
〇〇が円〇〇〇豚の日〇〇手伝え留守中

島谷〇馬屋へ置したるに戸を破り幼な子
を食へたるなり。 ◎四月十四日工藤保
次郎氏死去。 ◎五月二日弘前観桜会。
◎五月十二日金木観桜会。 ◎五月二
十八日春季運動会。 ◎十二月三日山分
けⅡ区有原野分譲に立会。

昭和十二年

昭和十六年

(日米英開戦)

◎四月三日午後五時出町有造一人児五
才男、土産の飴玉で死亡。 ◎四月十
七日青森放送局開式。 ◎五月三日春季
運動会 ◎五月二十八日午後十二時原
田与助住居全焼。 ◎七月十日蚊張吊初。

◎九月四日旧十三日お盆。 ◎九月十
一日戦死者分骨忠魂碑へ埋骨参列。 ◎
十二月八日日本未明米開戦

昭和十七年

◎一月二十三日千餅掲ぎ。 ◎
千餅も思うよう凍らず。 ◎二月
十四日旧年越。 ◎三月八日区会
選挙。 ◎五月五日金木観桜会、
村神楽。 ◎五月九日春季運動会。

◎六月二十日村会議員選挙。
◎十一月十八日午前三時金木花田
の魚組合に自家及沢角才焼失、火
元組合。

昭和十八年

◎一月十九日千餅掲ぐ。 ◎二
月四日旧正月年越。 ◎学校ニ
イス産業戦士慰問巡会。 ◎三月
巡査調べにきた。 三月二十三日

あり。 ◎九月一日午後七時警戒
警報発令。 ◎十一月十日特配酒
一升。 ◎十二月二十二日石ケン
配給あり。

▲六月十二日晴午後二時十分位近來な
き強地震、同五時半、六時の三回。十四
日午前二時過一回続いて数回。十五日午
後零時半一回後八時九分強震あり。
▲盆十三日午後八時頃より大雷雨、金
木川増水、余波線路伝へに嘉瀬川にも及